金城学院大学　シラバス

開講年度(Year)	2021年度	開講科目コード(Course code)	06280001
授業科目名(Course name)	世界の日本語教育		
担当者(Instructors)	山元 一晃		
開設学部学科(Department)	文学部　外国語コミュニケーション学科	科目分類番号(Course classification number)	252
開講クラス(Class)	（文）２	開講形態（Course format)	講義
科目区分(Course classification)	専門教育科目 専門教育科目	単位数(Credits)	2
開講期・曜日・時限(Semester / Day of the week / Period)	後期 木曜３限	担当形態（Instructor format)	単独
実験実習費（円）(Experiment/training fee (yen))		履修者数上限（名）(Maximum number of students)	120

■授業の概要(Course outline)

日本語教育の対象とする学び手はどのような人なのかについて学びます。また、その知識が日本語の教育にどのように活かせるのかを考えます。
【実務経験】日本語教師としての経験から、知識を日本語教育の現場にどのように活かしていくかを考えられるようにしていきます。

■到達目標(Course goals)

日本語の表記体系の特徴と外国人にとっての難しさを理解し、どのような指導が有効かを理解することができる。

■履修上の留意点(Important points)

manaba等オンラインのサービスを使用したインタラクティブな授業を行うので、インターネットに繋がる端末を持ち込むこと。スマートフォンでもよいが、パソコン、キーボード付きのタブレット端末等が望ましい。事前に、テキストを読み、問題を解いておくこと。

■学位授与方針 (Diploma policy)

１．知識・理解

日本を含む世界の多様な文化を理解するとともに、豊かな人間性を支える教養と深い専門的知識を身につけている。　◎

２．汎用的技能

世界の言語や文化の諸問題についての情報を適正に収集し、さまざまな研究理論を用いて分析し考察することができる。　○

４．統合的な学修経験と創造的思考力

これまでに修得した知識・技能・態度等を総合的に活用して、新たな課題に取り組むことができる。　○

■授業計画(Lesson plan)

1. ガイダンス
2. 外国語を学ぶということ①
3. 外国語を学ぶということ②
4. 第1章　異文化間コミュニケーション
5. 第2章　多文化・多言語教育
6. 第3章　言語政策と日本語教育
7. 第4章　日本語教育史
8. 前半のまとめ

9. 第5章　年少者日本語教育
10. 第6章　日本語教育事情（国内）
11. 第7章　日本語教育事情（海外）
12. 第8章　ことばの教育に必要なこと
13. 日本語教育の方法を考える
・・・グループで対象と内容を選び、教え方を考える。数種類のテキストから一つを選び、さらに、1課を選び教え方を検討する。
14. 日本語教育の方法を考える
・・・受講生を学習者と見立て、模擬授業をする。
15. 後半のまとめ

■授業時間外学修（予習・復習）の内容・時間(Preparation/review details and time)

ワークシートへの記入（予習）、フォローアップクイズへの回答（復習）

■課題／課題に対するフィードバックの方法(Assignments/feedback)

授業内でワークシートへの記入内容やリアクションシートへのフィードバックを行う。また、各自のワークシートへのコメントの記入も予定している。

■テキスト・参考書(Textbooks/references)

教科書（要購入）
鳥貴子・松本恭子（編）(2017)『日本語教育への道しるべ　第1巻 ことばの学び手を知る』(凡人社)

参考書（購入不要）
遠藤織絵（編）(2020)『新・日本語教育を学ぶ-なぜ、なにを、どう教えるか-』(三修社)
遠藤織絵（編）(2011)『日本語教育を学ぶ 第2版』(三修社)
奥村三菜子（編）(2016)『日本語教師のためのCEFR』(くろしお出版)
牲川 波都季 (2012)『戦後日本語教育学とナショナリズム』(くろしお出版)
山本冴里 (2014)『戦後の国家と日本語教育』(くろしお出版)

■評価方法(Evaluation method)

ワークシート　40%

模擬授業　20%

レポート　40%

■授業時間外の学生からの質問への対応(Responding to questions from students outside class hours)

オフィスアワーに対応するほか、授業後やmanabaなどでも質問を受け付ける。